

台湾における中国工程師学会中日工程技術検討会出席及び講演について



企画部 部長 丸岡 昇

1. 目的

中国工程師学会中日工程技術検討会は、工学に関し日本と台湾の学術交流を目指した組織であり、とりわけ台湾側が日本の進んだ工学や工業技術を学ぶことを目的としたものである。1981年以来、途切れることなく継続し、今回が第26回に当たる。台湾と日本の微妙な関係を反映し、日本側は民間ベースで対応しており、民間企業の職員が多い。その中で、水資源組は台湾側が經濟部水利署をカウンターパートとしている。水資源組の今回のマネージメントは、台湾科技研究發展教育基金会（TIWE-Taiwan International Institute for Water Education）が行った。ちなみに今回の講師として丸岡が指名されたのは經濟部水利署の推薦とのものであった。また、昨年丸岡がキーノートスピーチを行った、水環境に関する国際シンポジウムの主催者はTIWEであった。

2. 日程

出張期間 2006年6月11日から6月16日

日 程

6月11日 移動日（日本→台北）

6月12日 1) 開会式及び基調講演（公務人力發展中心1楼）

・中国工程師学会会長等によるオープニングセレモニー

・日本側による基調講演

2) 陳水扁大統領（総統）表敬訪問（大統領府（総統府））

・大統領府を表敬訪問し、陳水扁大統領に謁見を賜るとともに、対日関係を重視していること、台湾は技術の発展でしか発展できないこと、美しい山ときれいな河の緑のシリコンアイランドを目指す等環境を重視している等の御挨拶を頂いた。

6月13日 スタディーツアー及び現地検討会

1) 亀山島スタディーツアー（宜蘭県沖の亀山島自然保護区）

・軍事目的に長く使用されてきたため、貴重な自然が良く保全されている亀山島においてスタディーツアー実施

2) 現地検討会（宜蘭河の多自然型川づくりサイト）

・宜蘭県の大河川である宜蘭河の多自然型川づくりサイトにおいて、現場を見学するとともに、第一河川局の若手技術者と意見交換を行った。

6月14日 工程技術検討会シンポジウム（台湾大学工学院国際演講庁）

・台湾側3名、日本側2名によるシンポジウムを実施した。

出席者及び発表テーマ

經濟部水利署 署長 陳 伸賢氏

副署長 楊 偉甫氏

講師經濟部水利署水文技術組組長 洪 銘堅氏

（テーマ）台湾防洪預警報系統之發展

台北县政府副縣長／国際水利環境学院執行長

國立台湾大学土木系教授 李 鴻源氏

（テーマ）因応全球氣候遷的国土規劃

日本國河川整備中心規劃部長 丸岡 昇

（テーマ）Conservation and Restoration of River Environment in Japan

國立台湾大学水工試験所副研究員兼任推廣組組長

頼 進松氏

（テーマ）水利科技於台湾防災之応用

（財）河川情報センター理事 河川情報研究所長

中尾忠彦氏

（テーマ）洪水対策のための河川情報

聴講者 水利署職員を中心に100名程度

・丸岡は、1時間20分にわたり「日本河川環境的保全與再生」と題し講演を行うとともに、フリーディスカッションを会場の技術者達と行った。

6月15日

1) 中華經濟研究院訪問（中華經濟研究院）

・台湾の經濟研究のメッカである中華經濟研究院を訪問し、日本との經濟的な強いつながり、特に技術交流や観光による市民レベルの文化交流の重要性について講演を受けた。

2) 陽明山国家公園（陽明山国家公園及び管理处）

・台北市近郊に豊かな自然美を誇る陽明山国家公園とその管理处を訪問し、説明を受けた。

3) 故宮博物院（故宮博物院）

・台湾が誇る故宮博物院を訪問し、台湾及び中国の文化の厚みにふれた。

6月16日 移動日（台北→日本）

3. 結び

4度目の訪台であったが、変わらぬ技術者達の知識吸収への意欲とフレンドリーな対応にこちらも講演とディスカッションに力が入った。台湾技術者の技術力向上に今後も微力ながら貢献出来ることを願っております。